

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で下方修正も、インド、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

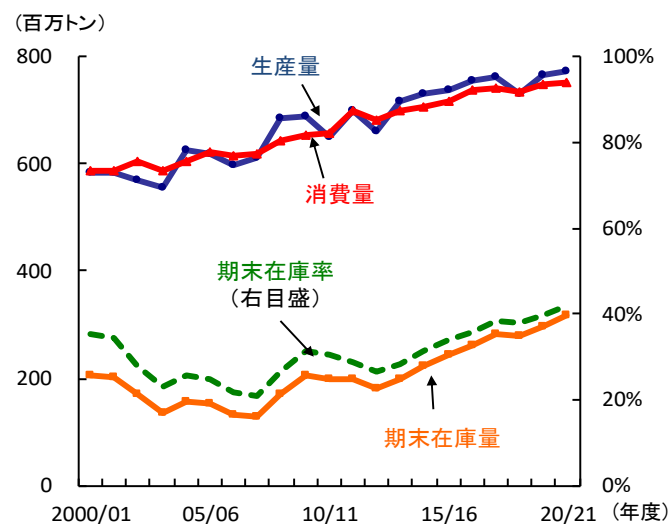
消費量 前年度比 前月比

- ・インド等で上方修正も、EU 等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で下方修正も、豪州、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA 「PS&D」(2020. 6. 11) をもとに農林水産省で作成

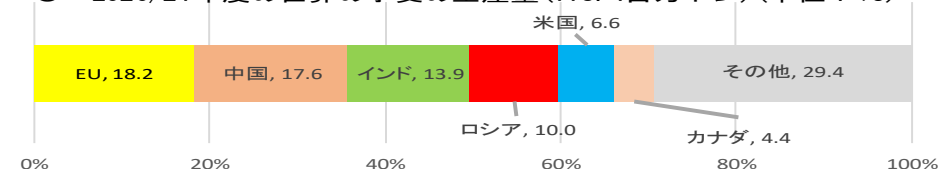
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

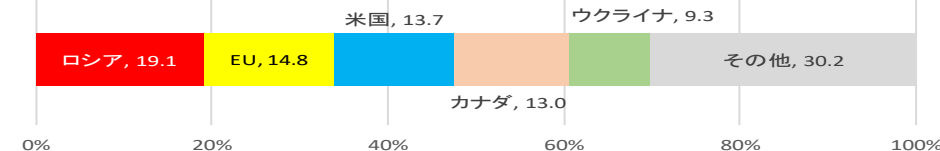
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	730.8	764.4	773.4	4.9	1.2
消 費 量	735.1	748.4	753.2	▲ 0.3	0.6
うち飼料用	139.5	142.2	136.5	▲ 1.0	▲ 4.0
輸 出 量	173.6	185.8	188.9	0.9	1.6
輸 入 量	170.7	181.6	183.4	0.6	1.0
期末在庫量	279.8	295.8	316.1	6.0	6.8
期末在庫率	38.1%	39.5%	42.0%	0.8	2.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 June 2020)

○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(773.4百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(188.9百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(183.4百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21 年度の実生産量は、前月予測に比べ 0.3 百万トン上方修正されたものの、51.1 百万トンと前年度を 2.2% 下回る見込み。そのうち、冬小麦の実生産量は、単収の上昇により、前月より 0.3 百万トン上方修正されたものの、34.5 百万トンと前年度(35.5 百万トン)より 3.9% 減少する見込み。前年度より作付面積が減少すると共に、カンザス州西部やコロラド州南部の主要生産地で乾燥により単収が低下した。

USDA「Crop Progress」(2020.6.22)によれば、6 月 21 日時点の冬小麦の出穂は、出穂進捗率(主要生産 18 州)が 96% となりほぼ終了した。現在収穫が進展し、収穫進捗率は、29% と前年度同期(13%)、5 年平均(26%)を上回っている。作柄評価は、良～やや良が 52% と、前週の 50% を上回ったものの、前年同期の 61% を下回っている。

春小麦は、出穂期を迎え、出穂進捗率は 12% と前年同期の 6% を上回るも、5 年平均の 22% を下回っている。作柄評価は良～やや良が 75% と、前週の 81% を下回ったものの、前年度同期(75 %)と同水準。

【貿易情報・その他】5 月末の輸出価格は、世界の潤沢な小麦供給量や米国産冬小麦の豊作見込みから、ハードレッドウインター(HRW)、ソフトレッドウインター(SRW)等は前月末に比べ下落。一方、ハードレッドスプリング(HRS)は春小麦の作付け遅れや、やや強い輸出ペースから前月末に比べ上昇。5 月末にかけて、ほとんどの品種が米国生産地の乾燥天候に加え、EU 地域や黒海地域の乾燥懸念により下支えされた。

2020 年(2020.1～2020.6.4)の輸出先国別輸出数量は、フィリピンが最も多く 136.7 万トンで、メキシコが 130.7 万トン、日本が 109.9 万トンの順。日本向けの 2020 年 1 月から 5 月までの輸出量は、2019 年(1 月～5 月)並みの 109.8 万トンで推移。

小麦－米国(冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.3	52.3	51.1	0.3	▲ 2.2
消 費 量	30.0	31.5	30.6	-	▲ 2.8
うち飼料用	2.4	3.7	2.7	-	▲ 25.9
輸 出 量	25.5	26.3	25.9	-	▲ 1.5
輸 入 量	3.7	2.9	3.8	-	33.2
期末在庫量	29.4	26.8	25.2	0.4	▲ 5.9
期末在庫率	53.0%	46.3%	44.6%	0.8	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.04	15.24	-	1.3
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.35	0.02	▲ 3.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

国名	5 月の輸出検証高	シェア(%)	2020年 累積輸出検証高	シェア(%)
フィリピン	277.9	14.3	1,366.9	13.0
メキシコ	136.8	7.0	1,307.0	12.4
日本	125.3	6.4	1,098.8	10.5
ナイジェリア	98.2	5.1	659.6	6.3
韓国	94.1	4.8	592.1	5.6
台湾	104.2	5.4	490.3	4.7
中国	418.4	21.5	418.4	4.0
イエメン	133.6	6.9	280.4	2.7
イタリア	59.6	3.1	273.0	2.6
グアテマラ	48.6	2.5	247.9	2.4
その他	448.3	23.0	3,764.5	35.9
合計	1,945.1	100.0	10,498.9	100.0

注1. 5 月の輸出検証高は、5 月 14、21、28 日及び 6 月 4 日の合計値。

注2. 累積輸出検証高は、2020 年 1 月 2 日～6 月 4 日の合計。

表 日本向け小麦輸出検証高の推移

(万トン)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	計
2020 年	28.2	23.7	23.9	21.6	12.5	109.8
2019 年	26.7	23.0	19.5	18.8	21.5	109.5

2020 年 5 月の輸出検証高は、5 月 14、21、28、6 月 4 日の合計値

2019 年 5 月の輸出検証高は、5 月 9、16、23、30 日の合計値

資料: USDA「Export Sales Query」

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)6月報告「Outlook for Principal Field Crops」(2020.6.23)によれば、2020/21年度の生産量は、33.9百万トンの見込み。このうち、デュラム小麦、普通小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ5.5百万トン、28.4百万トン(冬小麦2.8百万トン、春小麦25.6百万トン)。前年度に比べ生産量は、デュラム小麦が作付面積の増加、単収の上昇等から11%増加、普通小麦が、春小麦のわずかな減少に対し冬小麦の作付面積の増加から4%増加。

USDAによれば、春作物の作付けは、6月上旬まで天候に恵まれ主要生産地の平原三州(マニトバ州、アルバータ州、サスカチュワン州)で促進され、概ね終了。

カナダの各地方政府によれば、サスカチュワン州では、6月上旬に春作物の作付けが終了した。6月中旬の作柄評価(良～やや良の割合)は、春小麦76%、デュラム小麦69%、冬小麦70%となっている。

アルバータ州では、降雨と十分な土壌水分量で、発芽にとって例年より生育条件が良好で、6月上旬には春小麦の80.5%が発芽した。6月中旬の作柄評価(良～やや良の割合)は、春小麦83%、デュラム小麦86%、冬小麦84%となっている。

マニトバ州では、6月第2週に作物全体の作付け進捗率が97%(過去3年平均99%)となった。作物全体の発芽と生育は順調である。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は、デュラム小麦は期首在庫の減少から前年度から2%減少して4.9百万トン、普通小麦は前年度から5%増加して19.2百万トンの見込み。USDAによれば、5月末のカナディアン・ウェスタン・レッド・スプリング(CWRS)の輸出価格は、4月末の230ドル/トンから238ドル/トンに上昇した。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2019/20年度(2019年8月～2020年4月)の普通小麦の輸出量累計は4月末現在、1,172.3万トン。国別にはインドネシアが138.3万トン、日本が137.5万トンの順で、両国でカナダの輸出量の23.5%を占めている。

小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.2	32.4	34.0 (33.9)	-	5.1	
消 費 量	9.0	10.4	9.8 (9.1)	-	▲ 5.8	
うち飼料用	4.0	5.3	4.6 (4.4)	-	▲ 13.2	
輸 出 量	24.4	23.0	24.5 (24.1)	-	6.5	
輸 入 量	0.5	0.6	0.5 (0.2)	-	▲ 18.2	
期末在庫量	6.0	5.5	5.7 (6.8)	-	2.7	
期末在庫率	18.1%	16.6%	16.6% (20.5%)	-	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	9.80 (9.99)	-	1.4	
単収(t/ha)	3.26	3.35	3.47 (3.39)	-	3.6	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(23 June 2020)

表 カナダの普通小麦の輸出先国別輸出量

	2020年4月			2019年8月～2020年4月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	コロンビア	19.1	12.5	インドネシア	138.3	11.8
2	中国	15.6	10.2	日本	137.5	11.7
3	日本	13.3	8.7	コロンビア	93.7	8.0
4	ペルー	12.2	8.0	ペルー	78.9	6.7
5	スリランカ	9.8	6.5	中国	68.2	5.8
6	その他	82.0	54.0	その他	655.7	55.9
計		152.0	100.0	計	1172.3	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2: 品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter

注3: 累計輸出検証高は2019年8月～2020年4月までの累計

資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.6.9)によれば、2月から4月までの降水量累計が豪州東部やサウスオーストラリア州(SA)の生産地で平年を超え、ウェスタンオーストラリア州(WA)で平年並みとなった。5月も多くの生産地で平年並みの降雨量となったが、クイーンズランド州(QL)、WA州の一部では、作付予定面積を達成するには更なる降雨が必要な状況。

2020/21年度の作付面積は前年度より27%増加して13.0百万ヘクタールの見込み。主要生産州の作付面積は、WA州で大麦より小麦の収益性が高いことから、対前年度6%増加し4.8百万ヘクタール、2年続きの干ばつであったNSW州の北部と西部で良好な天候から、前年度の2倍となる3.7百万ヘクタールの見込み。

2020/21年度の生産量は、5月から十分な降雨に恵まれたこと等より、前年度に比べ76%増加し、26.7百万トンとなる見込み(前回3月予測は21.4百万トン、5年平均は21.6百万トン)。主要生産州の生産量は、WA州で8.6百万トン(5年平均は8.3百万トン)、NSW州で8.3百万トン(5年平均は5.1百万トン)の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、土壌水分の回復による牧草の生産増加や、中国の新関税の賦課で中国向け大麦の輸出量が減少することで、小麦の飼料用需要が大麦等にシフトすることから、前月予測より0.5百万トン下方修正され3.5百万トンとなる見込み。この飼料用需要の減少により小麦の輸出余力が増加し、輸出量は前月予測に比べ2.0百万トン上方修正され、17.0百万トンとなる見込み。

5月末の輸出価格は、豊作が期待される生育状況のため4月末の288ドル/トンから278ドル/トンに低下したものの、他の主要輸出国に比べると高い水準。

なお、ABARES「Agricultural commodities」(2020.6.16)によれば、2020年7月5日に豪州・インドネシア包括経済連携協定が発効予定。インドネシアは協定の1年目に小麦を含む豪州産飼料穀物50万トンの関税を撤廃し輸入する見込み。豪州産は、インドネシア市場で競争力を増す見込み。

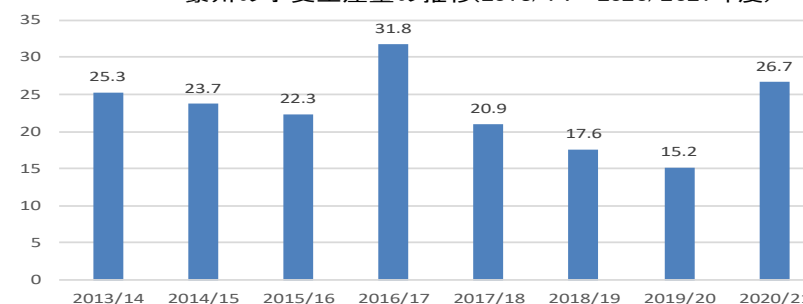
小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

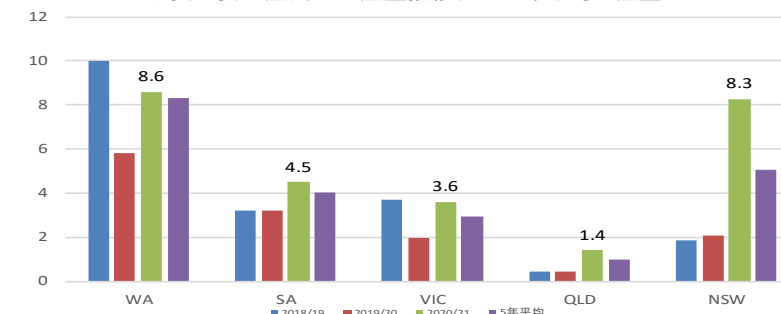
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.6	15.2	26.0 (24.0)	2.0	71.1	
消費量	9.2	8.4	7.1 (7.6)	▲ 0.5	▲ 16.1	
うち飼料用	5.7	4.9	3.5 (4.0)	▲ 0.5	▲ 28.6	
輸 出 量	9.0	9.2	17.0 (14.0)	2.0	84.8	
輸 入 量	0.5	0.5	0.2 (0.4)	-	▲ 60.0	
期末在庫量	5.4	3.5	5.7 (6.5)	0.3	60.7	
期末在庫率	29.9%	20.1%	23.7% (30.0%)	▲ 0.1	3.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00 (…)	0.90	27.5	
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.00 (…)	0.02	34.2	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
IGC 「Grain Market Report」(28 May 2020)

(百万トン) 豪州の小麦生産量の推移(2013/14～2020/2021年度)



(百万トン) 小麦主要生産州の生産量推移及び5年平均生産量



資料: 豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(June 2020)をもとに農林水産省で作成

< EU > (英国を含む)

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、英国等の乾燥から前月予測に比べ、2.0百万トン下方修正され、141.0百万トンとなる見込み。

5月は、東部ヨーロッパの多くの地域で降雨により生殖生長期から成熟期の冬作物の見通しが改善したものの、ハンガリーとその近郊で乾燥が続く小麦に悪影響を与えた。

また、フランス及びドイツの中央と南部では降雨により生育条件が改善されたが、英国からフランス、ドイツの北部の多くでは、乾燥が続く、生殖生長期の作物に影響を与えた。イベリア半島では、春の遅い時期の降雨で高水準の生産量が見込まれている。

EU委員会によれば、6月上旬現在、欧州全域で例年より早く生育が進んでいる。スペイン南部、フランス南部等では例年より早く完熟期を迎え、フランス北東部、ルーマニアでは登熟期、ドイツ、ポーランドでは開花期を迎えている。

フランスアグリメールによれば、6月8日現在、フランスの普通小麦の作柄評価は、良～とても良いが56%と前年度の80%を下回っている。また、デュラム小麦の作柄も、良～とても良いが63%と前年度の70%を下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、飼料用需要は、2年連続の大麦の豊作で相対的に小麦の価格競争力が低下し、小麦の飼料用需要が大麦へシフトすることから、前月予測に比べ1.0百万トン下方修正され、49.5百万トンと前年度を5.7%下回る見込み。

2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、28.0百万トンとなる見込み。前年度世界第1位であったEUでは、生産量が減少するものの、小麦の飼料需要の減少で輸出余力が補われるため、輸出量は世界第2位に留まる見込み。

一方、2019/20年度の輸出量は、十分な輸出余力と価格競争力によりここ数ヶ月の輸出ペースが早いことから、前月より1.5百万トン上方修正され、36.5百万トンとなる見込み。なお、下落傾向であった輸出価格は、5月末、域内の一部での乾燥懸念に下支えされ4月末の220ドル/トンから221ドル/トンにわずかに上昇した。

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はEU		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.7	154.8	141.0	(128.8)	▲ 2.0	▲ 8.9
消費量	121.1	122.5	119.3	(107.4)	▲ 1.0	▲ 2.6
うち飼料用	51.5	52.5	49.5	(43.2)	▲ 1.0	▲ 5.7
輸 出 量	23.3	36.5	28.0	(27.8)	▲ 0.5	▲ 23.3
輸 入 量	5.8	4.6	5.5	(5.9)	-	19.6
期末在庫量	12.0	12.4	11.6	(11.0)	▲ 1.5	▲ 6.5
期末在庫率	8.3%	7.8%	7.8%	(8.1%)	▲ 0.9	0.1

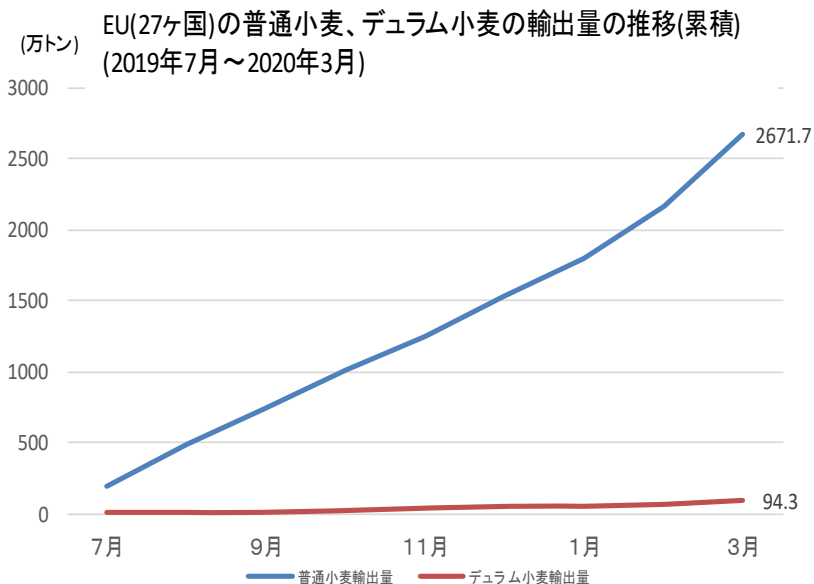
(参考)

収穫面積(百万ha)	25.52	26.08	25.25	(23.66)	-	▲ 3.2
単収(t/ha)	5.36	5.94	5.58	(5.44)	▲ 0.08	▲ 6.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

USDA 「PS&D」 (11 June 2020)

EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (28 May 2020)



資料: EU委員会「Cereals export and import」(5.19)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】国家糧油情報センター(2020.6.3)によれば、小麦生産地の天候は、冬小麦生産地の河北省、山東省等で日照時間、気温、土壌水分量も良好、江蘇省、安徽省、湖北省でもやや気温が高かったものの、降雨があり良好であった。春小麦生産地の黒竜江省で気温は平年並み。甘粛省、青島省で気温は平年並みであったものの、甘粛省では降水量が多かった。

中国気象台によれば、6月3日までの冬小麦の生育状況は、河北、山東、江蘇、安徽省で乳熟期から成熟期、甘粛、寧夏省で開花期、陝西省で乳熟期に入っている。四川、雲南、貴州省では一部を除き収穫は終了している。

また、同日までの春小麦の生育状況は、黒竜江省の北部で分げつ期、甘粛省で出穂から開花期、青島省で分げつ期を迎えている。

中国糧油情報センターによれば、2020/21年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、134.0百万トンの見込み。種類別の内訳は、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ126.6百万トン、7.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、小麦価格はとうもろこしに比べ安価なため、とうもろこしの代替として飼料用に用いられ、2020/21年度の消費量は、前月予測に比べ、0.5百万トン上方修正され、124.3百万トンとなる見込み。

中国農産品供需形勢分析月報(5月)によれば、5月中旬以降、南部の地域で収穫が進展し、市場に新穀が供給され始めたことから市場価格が低下した。一方、普通小麦のうち、高品質な小麦は、供給不足で引き続き価格は上昇した。

2020年1月から4月の小麦の輸入量計は、前年同期に比べ31.1%増加の151.4万トン。輸入先国のシェアは、2019年はカナダが71%を占めていたが、2020年はカナダが14%に減少し、豪州が39%、フランスが32%と増加、両国で71%を占めている。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	131.4	133.6	136.0 (134.0)	1.0	1.8	
消費量	125.0	126.0	130.0 (130.9)	-	3.2	
うち飼料用	20.0	19.0	20.0 (21.0)	-	5.3	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-	
輸 入 量	3.2	4.5	6.0 (4.2)	-	33.3	
期末在庫量	139.8	150.9	161.9 (135.1)	1.5	7.3	
期末在庫率	110.9%	118.8%	123.6% (102.3%)	1.1	4.8	

(参考)

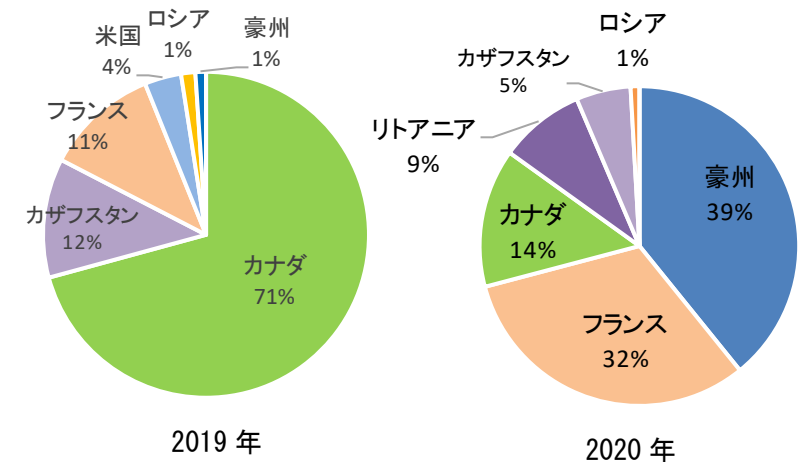
収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	24.00 (…)	-	1.1
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.67 (…)	0.04	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 June 2020)

IGC 「Grain Market Report」(28 May 2020)

図 1月から4月までの小麦輸入先国の割合(2019年、2020年)



資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア気象センターによれば、5月、ロシア・ヨーロッパ部(※)の中央、北西、沿ボルガ連邦管区で冬小麦は概ね茎立ち期。作柄は、概ね良好～並。春小麦は発芽から分けつ期。南及び北カフカス連邦管区で冬小麦が概ね出穂期、春小麦が分けつ期から茎立ち期、作柄は冬、春小麦とも概ね並であるが、スタボロポリ地域で降雨不足により立枯れ等の影響がでている。

また、ロシア・アジア部のウラル、シベリア連邦管区では、冬小麦は出穂の初期、春小麦は温暖な天候で生育が進み発芽から子葉形成期で、冬、春小麦とも作柄は概ね良好である。

ロシア農業省によれば、2020/21年度の穀物全体の生産量は122.5百万トン、そのうち小麦は75.0百万トンとなる見込み。

一方、USDAによれば、2020/21年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、77.0百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が57.0百万トン、春小麦が20.0百万トン。ロシア南部の一部地域で懸念されている降雨不足による生産量の減少は、中央連邦管区、沿ボルガ連邦管区の良い冬小麦の実生産量で補われると見込まれている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月予測より1.0百万トン上方修正され36.0百万トンの見込み。EU及びウクライナの生産減に伴う輸出量の減少により、ロシアの輸出量は増加し、世界第1位になる見込み。

ロシアの2019/20年度(2019.7～2020.4)の輸出量は3,160万トンとなり、輸出先国のシェアは、トルコ24%、エジプト19%、バングラデシュ7%である。

なお、5月末の輸出価格は220ドル/トンで、冬小麦が比較的良好な生育状況で収穫を迎えることから4月末(227ドル/トン)に比べ低下した。

ロシア政府は、4月1日から輸出枠を適用したが、6月末で終了する見通し。また、報道によれば、7月以降2020/21年度の新穀の収穫が開始されることから、当面輸出規制は行わない見込み。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	77.0 (79.0)	-	4.6
消費量	40.5	40.0	40.5 (41.2)	-	1.3
うち飼料用	18.0	17.0	17.5 (18.2)	-	2.9
輸 出 量	35.8	33.5	36.0 (36.1)	1.0	7.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.5 (0.3)	-	42.9
期末在庫量	7.8	8.3	9.3 (12.0)	▲ 1.0	12.1
期末在庫率	10.2%	11.3%	12.1% (15.6%)	▲ 1.5	0.9

(参考)
 収穫面積(百万ha) 26.34 27.31 27.50 (・・・) - 0.7
 単収(t/ha) 2.72 2.70 2.80 (・・・) - 3.7
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(11 June 2020)
 IGC 「Grain Market Report」(28 May 2020)

表 ロシアの小麦輸出先国(シェア)

	2020年4月			2019年7月～2020年4月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出量シェ ア (万トン)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出量シェ ア (万トン)
1	トルコ	97.6	28.8	トルコ	7,635.5	24.2
2	エジプト	26.2	7.7	エジプト	6,031.3	19.1
3	モロッコ	21.2	6.2	バングラデシュ	2,093.7	6.6
4	アゼルバイジャン	17.8	5.3	アゼルバイジャン	1,302.9	4.1
5	UAE	14.4	4.2	スーダン	1,053.3	3.3
6	その他	161.5	47.7	その他	13,485.0	42.7
計		338.8	100.0		31,601.7	100.0

資料:ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

※ ロシア・ヨーロッパ部: 中央、北西、沿ボルガ、南、北カフカス連邦管区
 ロシア・アジア部: ウラル、シベリア、極東連邦管区

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル等の上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

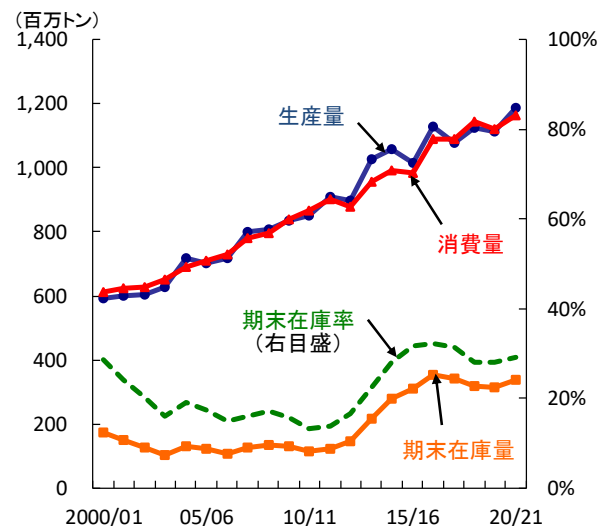
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国等の上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ザンビア等の上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料 : USDA 「PS&D」 (2020. 6. 11) をもとに農林水産省にて作成

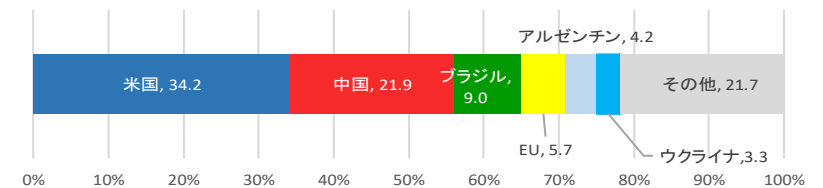
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

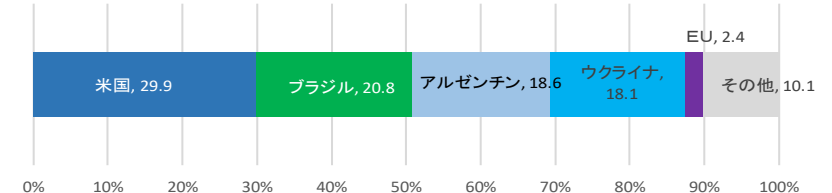
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	1,123.3	1,113.5	1,188.5	1.6	6.7
消 費 量	1,144.5	1,120.7	1,163.5	1.5	3.8
うち飼料用	702.9	706.2	730.4	1.4	3.4
輸 出 量	181.2	169.5	182.5	0.3	7.7
輸 入 量	162.9	169.6	176.6	0.3	4.1
期末在庫量	320.1	312.9	337.9	▲ 1.8	8.0
期末在庫率	28.0%	27.9%	29.0%	▲ 0.2	1.1

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 June 2020)

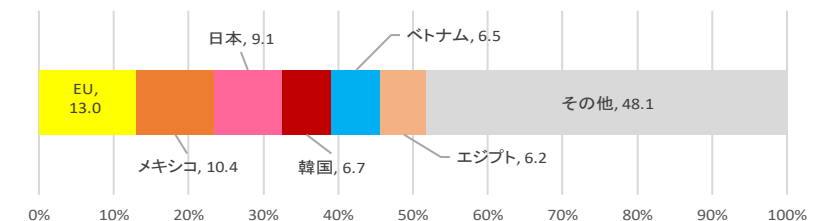
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,188.5 百万トン) (単位: %)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (182.5 百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (176.6 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

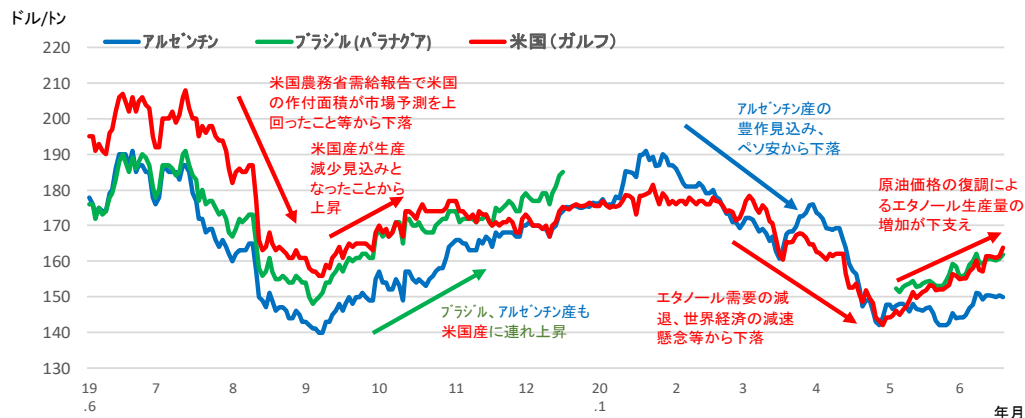
【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加により前年度より17.5%増の406.3百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」（2020.6.22）によれば、天候におおむね恵まれたことから、作付けは早期に終了し、6月21日現在でシルキング率は主要18州において2%と、前年度同期（1%）を上回り、過去5年平均（2%）と同水準となっている。作柄評価は、良からやや良が72%と前年度同期（56%）を上回っている。

【需要動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度の新型コロナウイルスの感染拡大による需要落ち込みの反動から飼料用需要及びエタノール用需要ともに増加し、前年度より5.4%増の321.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、国際貿易の回復と高い価格競争力のため、前年度より21.1%増の54.6百万トンの見込み。なお、輸出検証高（2020年1月2日～6月4日）は、21.1百万トンであり、内訳はメキシコ（6.2百万トン）、日本（5.3百万トン）の順である。

直近の輸出価格は、エタノール需要の減退、世界経済の減速懸念等から下落していたが、5月以降原油価格の復調等によるエタノール生産量の増加が下支えし、やや持ち直している。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

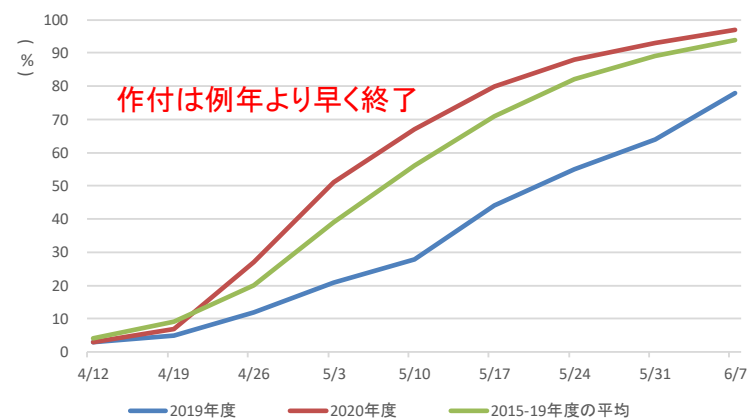
とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	364.3	345.9	406.3	-	17.5
消 費 量	310.5	304.9	321.3	-	5.4
うち飼料用	137.9	144.8	153.7	-	6.1
エタノール用等	136.6	124.5	132.1	-	6.1
輸 出 量	52.5	45.1	54.6	-	21.1
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 43.9
期末在庫量	56.4	53.4	84.4	0.1	58.0
期末在庫率	15.5%	15.3%	22.5%	0.0	7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.89	32.91	36.26	-	10.2
単収(t/ha)	11.07	10.51	11.20	-	6.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

図：主要18州における作付進捗率の推移



資料：USDA「Crop Progress」

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月から1.0百万トン上方修正され、前年度より5.9%増の107.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.6.9)によれば、2019/20年度の収穫が終了した夏とうもろこしの生産量は、南部のリオグランデドスル州の乾燥による単収の低下により、前年度比0.8%減の25.4百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、現在収穫が始まった冬とうもろこしの生産量は、作付面積の増加により前年度より1.6%増の75.6百万トンが見込まれ、合計では101.0百万トンと前年度(100.0百万トン)を上回る見込み。(P.18大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

冬とうもろこしの収穫率は6月19日現在で主産地のマトグロッソ州で16%と収穫が早かった前年度より8ポイント遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ68.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より8.6%増の38.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～5月の累計輸出量は3.0百万トンで、前年同期比60%減となっている。内訳は、1位が台湾で79万トン、2位が日本で44万トンとなっている。7月以降、冬とうもろこしの収穫の進展に伴い、輸出量が増加するとみられる。

写真：中西部マトグロッソ州の
冬とうもろこし収穫風景
(6月2日撮影)



とうもろこしーブラジル

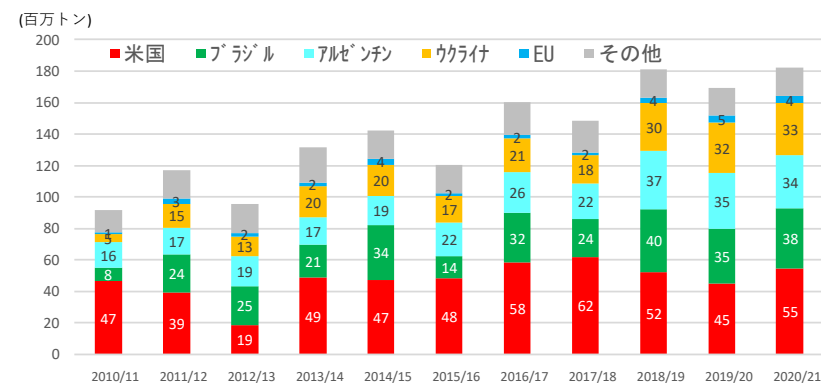
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	101.0	107.0	(105.5)	1.0	5.9
消 費 量	67.0	68.0	68.0	(70.6)	-	-
うち飼料用	57.0	58.0	58.0	(54.0)	-	-
輸 出 量	39.8	35.0	38.0	(35.0)	-	8.6
輸 入 量	1.7	1.2	1.5	(0.8)	-	25.0
期末在庫量	5.2	4.4	6.9	(5.0)	1.0	56.9
期末在庫率	4.9%	4.3%	6.5%	(4.7%)	0.9	2.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.40	18.90	(18.36)	0.20	2.7
単収(t/ha)	5.77	5.49	5.66	(5.75)	▲ 0.01	3.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
IGC「Grain Market Report」(28 May 2020)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2020.6.11)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ 50.0 百万トンの見込み。

なお、「ブエノスアイレス穀物取引所週報」（2020.6.18）によれば、収穫率は 71%。生産量は 50.0 百万トン（前年度 50.6 百万トン）の見込み。全体的に作柄は良好。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.9%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020 年 1～4 月の輸出量は 11.3 百万トンで、前年同期より 13%増。内訳は、1 位がベトナム 2.0 百万トン、2 位がペルー 1.3 百万トン、3 位がアルジェリア 1.2 百万トン。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げた。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前年度より 0.3%減の 260.0 百万トンの見込み。中国国家糧油情報センター（2020.6.3）によれば、2020/21 年度の作付けは、天候に恵まれ順調で、5 月上旬には東北地区の春とうもろこしの播種がほぼ終了した。6 月上旬現在、河南省等の産地で夏とうもろこしの播種が始まっている。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月から 1.0 百万トン上方修正され、飼料用需要の回復に伴い、前年度より 1.8%増の 276.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から 2018 年 7 月から米国産とうもろこし輸入には 25%の追加関税が賦課されていたが、中国財政部は、2020 年 2 月 18 日、輸入業者向けに追加関税の免除措置の手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～4 月の輸入量は 214 万トンで、前年同期比で 1.3 倍。主にウクライナ産 197 万トン（92%）が占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 5 月号」（2020.6.16）によると、国内の新型コロナウイルスの感染拡大の落ち着きにより、とうもろこしの加工及び貿易企業が平常の生産体制に戻り、川下の需要も徐々に増加したことから 5 月の国内流通価格は上昇した。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.0	50.0 (52.1)	-	-
消 費 量	13.8	14.0	15.5 (21.6)	-	10.7
うち飼料用	9.7	10.0	11.0 (17.0)	-	10.0
輸 出 量	37.2	35.0	34.0 (30.4)	-	▲ 2.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	3.4	3.9 (3.9)	▲ 1.0	15.1
期末在庫率	4.6%	6.9%	7.8% (7.5%)	▲ 202.0%	1.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	6.10	6.20	6.20 (6.90)	-	-
単収(t/ha)	8.36	8.06	8.06 (7.55)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

IGC 「Grain Market Report」(28 May 2020)

とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	257.3	260.8	260.0 (261.0)	-	▲ 0.3
消 費 量	274.0	271.0	276.0 (288.2)	1.0	1.8
うち飼料用	191.0	186.0	189.0 (180.0)	1.0	1.6
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	4.5	7.0	7.0 (7.0)	-	-
期末在庫量	210.3	207.1	198.1 (170.7)	▲ 2.0	▲ 4.4
期末在庫率	76.8%	76.4%	71.8% (59.2%)	▲ 1.0	▲ 4.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	42.00 (41.76)	-	1.7
単収(t/ha)	6.11	6.32	6.19 (6.25)	-	▲ 2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

IGC 「Grain Market Report」(28 May 2020)